

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2011年1月29日

報告書名：平成21年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

平成21年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

2011年1月29日

事業名	ナンガハル県における初等教育改善計画 Project for Improvement of Primary Education in Nangarhar Province	
事業対象地	アフガニスタン国 ナンガハル県ジャララバード市、カマ郡、ガニハル郡、モマンダラ郡、スクロッド郡、クズクナール郡、コット郡、ダライヌール郡、バティコット郡	
事業期間	事業期間：2009年12月7日～2010年12月6日	
公的資金種別	平成21年度 日本NGO連携無償資金協力	
総支出・返還金	総支出：57,719,337円（返還額：10,000,262円）	
プロジェクト目標および、その達成度	本事業の目的は、ナンガハル県の対象地域の「児童の学習環境を改善する」ことで、校舎建設活動、家具供与活動、図書室改善活動の3つの要素で構成し、これらの相乗効果によって児童の学習環境の改善を図った。学校建設活動の結果、898名の児童が野外での学習から解放され、快適で安全な教室で学習することができるようになった。家具供与活動の結果、対象校8校において机・椅子で学習する児童が2520名増加し、図書室改善活動により、図書室の利用頻度が週に2.06回まで増加した。結果、プロジェクト目標の達成度はおおむね達成とした。	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 計画通り、N連資金によりカマ郡「ガジ女子小学校」、ガニハル郡「マルコ男子小学校」の2校を建設し、自己資金によりモマンダラ郡「ランディブソウル小学校」、スクロッド郡「シャヒドアダムカーン男子小学校」の2校を建設した。	受益者数 898人
	(2) 家具供与活動 上述の学校建設対象校の4校の計26教室に、教員用机と椅子、児童用机と椅子（3人掛け、1教室に15台）、棚（教室に1台）を供与した。また2007年度に建設した4校計30教室にも、児童用机と椅子（3人掛け）を供与した。	2,520人
	(3) 図書室改善活動 3校を対象に図書室の備品（本棚、机、椅子）と図書712冊を供与した。ジャララバード市内の22校では3日間の図書館司書研修を2回行った。各校あたり1月あたり2回、9カ月間の合計で18回、合計で396回（18回×22校）移動図書箱活動も実施した。	73,836人
成果	(1) 校舎建設活動 <u>「校舎建設対象校の4校の野外クラス数が32から8に減少する。」</u> 計画時には校舎建設については、指標を野外クラス数としていたが、事業期間中にクラス数自体が増加したため、野外クラス数は校舎建設による効果を適切に示さな	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2011年1月29日

報告書名：平成21年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

	<p>い指標であることから、教室で学ぶクラス数に修正した。教室で学ぶクラス数は事業前の26クラスから、40クラスまで増加した。(ガジ校16クラス、マルコ校8クラス、ランディバサウル校12クラス、シャヒドアダムカーン校4クラス。898名の児童が野外での学習から解放され、快適で安全な教室で学習することができるようになった。</p> <p>(2) 家具供与活動</p> <p>「家具供与活動対象校の8校で机・椅子で学習する児童が2,520名増加する。」</p> <p>供与した机・椅子のセットは教育省の基準に基づき、3人がけの仕様であり、1教室に15セット設置した。計画通り供与が行われたので、「8校において机・椅子で学習する児童が2520名増加する」という目標は達成された。</p> <p>(3) 図書室改善活動</p> <p>「図書活動研修会の対象校の31校の児童の図書室の利用頻度が週に2.5回以上になる。」</p> <p>実際に事業を実施した30校のうちジャララバード市内の22校について、1年生から6年生までの発達段階別に1校あたり6名、計132名の児童をランダムに抽出したサンプルを対象に、インタビュー調査を実施した。「図書室を週に何回利用しているか」という質問への回答の結果は、平均で週に2.06回であり、回答者の83%は週に1回以上図書室を利用していた。最も多く図書室を利用する時間帯は、授業中が41%、休憩時間中が26%、授業開始前が23%となっている。授業中の利用度が高いという結果は、本事業の研修の成果により教員が授業に図書室での活動を取り入れるようになったことを示している。</p> <p>したがって、ジャララバード市内の22校については概ね目標は達成されたと判断される。しかしながら農村部の8校についてはデータ収集ができなかった。今後の課題である。</p> <p>【インパクト】</p> <p>ポジティブなインパクトとして2点が観察された。第一は、校舎建設対象校での就学児童数の増加である。対象4校では建設後に就学児童が増加し、合計で1674名増加した。要因の一つは自然増であるが、校長へのインタビュー結果は、新校舎ができたことにより、未就学児童の親が子どもを学校に行かせる動機が高まったこと、児童の就学意欲が高まったことを示した。第二は、学校図書室改善活動が都市部から農村部に広がる見込みであることである。2008年から2010年までジャララバード市内のすべての小学校を対象に学校図書室改善活動を実施し、2010年度で終了したのであるが、この成果をナンガハル県教育局は高く評価し、農村部の2郡で同様の事業の実施を当会に要請してきた。そこで当会は都市部で確立したモデルを2011年度から農村部に広げていくことを計画している。</p>
課題と対応策	活動(1)について、以下2校が目標値を下回った。

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2011年1月29日

報告書名：平成21年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

	<p>マルコ小学校の実績値が目標値を下回っている原因は、同校は、小学校、中学校、高校課程からなる高校であったが、建設前に小学生が使っていた7教室を建設後は、中・高校生のクラスが使用するようになり、当会が建設した8教室のみを小学校クラスが使用しているためである。</p> <p>ランディバサウル小学校の実績値が目標値を下回っている原因は、以下のとおりである。同校の建設前は2部制で17クラスであった。同校では、UNHCR支援によって建設された1棟6教室が当会支援による建設前にあったため、当時の17クラス（午前11クラス、午後6クラス）のうち午前5クラスが野外で、午前午後各6クラスは教室で行われていた。建設後にクラス数は21に増加したにもかかわらず、2部制から1部制に変更となったため、12クラスは当会による6教室および以前からあった6教室を使って学習しているものの、残りの9クラスは野外クラスのままととなった。1部制に変更になった理由は、同校の校長によると、遠隔地から通学する児童にとって午後の遅い時間に通学することが危険であるためである。実際、校舎建設前はランディバサウル村と周辺3カ村から児童が通ってきていたが、新しい校舎の完成後、より多くの村から子どもたちが通ってくるようになっている。</p>
教訓・提言	<p>提言としては、以下の3点があげられる。第一に図書室改善活動を農村部に広げるにあたって、ベースライン調査および終了時調査を行い、プロジェクトの効果を測定する仕組み、体制、予算措置を講ずるべきである。第二に校舎建設の指標は、就学児童が増加し、クラス数が増加することを前提にして設定すべきである。したがって、野外クラスの減少数を指標とするよりも教室で学習するクラスの増加数を指標とするべきである。第三に図書室改善活動の財政的自立発展性を高めるために、教育行政機関への働きかけを強化すべきである。</p>